

目 次

編集委員巻頭言	芹澤 昭彦
〈原 著〉	
沖縄本島中部地区市町村子宮頸がん検診への LBC 全面導入効果 ——従来法と LBC 法の比較検討——	中部地区医師会検診センター八重山出張所 黒島 義克・他 (137)
Morphological analysis of reactive mesothelial cell clusters with collagenous stroma in malignant and non-malignant effusions	Department of Laboratory Medicine, Chugoku Central Hospital Toshiyuki Habara, et al. (142)
乳腺原発 invasive micropapillary carcinoma の細胞学的検討	茅ヶ崎市立病院臨床検査科 内山 瞳・他 (148)
〈症 例〉	
小脳髄芽腫 (classic medulloblastoma) の 1 例	兵庫県立こども病院病理診断科 吉田 牧子・他 (154)
淡明細胞軟骨肉腫の 1 例	兵庫医科大学病院病院病理部 石田 誠実・他 (160)
膀胱微小乳頭型尿路上皮癌の 2 例	滋賀医科大学附属病院検査部・病理部 籠谷亜希子・他 (165)
乳房部皮膚に発生した hidradenoma の 1 例	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立急性期・総合医療センター病理科 下山 玲子・他 (170)
子宮体部より発生したと考えられる大細胞神経内分泌癌 (LCNEC) の 1 例	奈良県立医科大学産婦人科学教室 山田 有紀・他 (174)
〈特 集〉ベセスダシステムを導入して（施設間の違い）——ASC-H の細胞判定と組織学的な背景——	
特集によせて	上尾中央総合病院検査技術科病理 大野 喜作・他 (179)
細胞診 ASC-H の組織学的な背景病変 ——現状と問題点——	公益財団法人がん研究会がん研究所病理部 古田 玲子・他 (180)
がん専門病院の ASC-H 判定の現状と年齢層別にみた細胞像の特徴	公益財団法人がん研究会有明病院臨床病理センター細胞診断部 山田麻里沙・他 (189)
総合病院 4 施設における ASC-H 判定の現状と問題点	埼玉県済生会川口総合病院臨床検査科 北村美寿穂・他 (195)
登録衛生検査所 3 社における ASC-H 判定の現状と課題	(株)正和ラボラトリー 船津 靖亮・他 (201)
投稿規定	(206)
編集委員会	(213)

*

〈表紙写真〉

淡明細胞軟骨肉腫

（左：パパニコロウ染色，右：H-E 染色）（石田誠実・他，左：Photo. 3a, 162 頁，右：Photo. 4b, 163 頁）

CONTENTS

Editorial.....	Akihiko Serizawa
----------------	------------------

Original Articles

Effectiveness of introduction of liquid-based cytology (LBC) in municipality cervical cancer screening in the Chubu District in the main island of Okinawa——Comparison of the conventional and LBC methods—— Yoshikatsu Kuroshima, et al. (Yaeyama Branch, Med. Examination Center of Chubu Med. Assoc., Okinawa)	(137)
Morphological analysis of reactive mesothelial cell clusters with collagenous stroma in malignant and non-malignant effusions Toshiyuki Habara, et al. (Dept. of Lab. Med., Chugoku Central Hosp., Hiroshima)	(142)
Cytological characteristics of invasive micropapillary carcinoma of the breast Hitomi Uchiyama, et al. (Dept. of Clin. Lab., Chigasaki Municipal Hosp., Kanagawa)	(148)

Clinical Articles

A case of classic medulloblastoma Makiko Yoshida, et al. (Dept. of Path., Kobe Children's Hosp., Hyogo)	(154)
A case of clear cell chondrosarcoma Masanori Ishida, et al. (Dept. of Surg. Path., Hyogo Collge of Med., Hyogo)	(160)
Two cases with the micropapillary variant of urothelial carcinoma of the urinary bladder Akiko Kagotani, et al. (Dept. of Clin. Lab. Med. and Div. of Diag. Path., Shiga Univ. of Med. Sci., Shiga)	(165)
A case of Hidradenoma arising in the skin of the breast region Reiko Shimoyama, et al. (Dept. of Path., Osaka General Med. Center, Osaka)	(170)
Large cell neuroendocrine carcinoma of the endometrium——A case report—— Yuki Yamada, et al. (Dept. of Obst. & Gynecol., Nara Med. Univ., Nara)	(174)

Special Articles Inter-facility variations in histological diagnoses following ASC-H

Histological background for cytological diagnosis ASC-H——A present state and problems—— Reiko Furuta, et al. (Div. of Path., The Cancer Inst., Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo)	(180)
Cytological characteristics of atypical squamous cells, cannot exclude high-grade squamous intraepithelial lesion (ASC-H) in cancer institute hospital, with particular focus on age distribution Marisa Yamada, et al. (Dept. of Cytol., Cancer Inst. Hosp., Tokyo)	(189)
Facts and problems related to the diagnosis of atypical squamous cells cannot exclude high grade squamous intraepithelial lesion (ASC-H) in 4 general hospitals Mizuho Kitamura, et al. (Dept. of Clin. Lab., Saitama Saiseikai Kawaguchi General Hosp., Saitama)	(195)
The present condition and issues after the Bethesda system introduction in three registered Clinical laboratories Yasuaki Funatsu, et al. (Seiwa Lab. CO., LTD., Saitama)	(201)

Notice to contributors.....	(206)
-----------------------------	-------

Cover Photo

Clear cell chondrosarcoma (Left : Pap. stain, Right : H-E stain) (Masanori Ishida, et al., Left : Photo. 3a, p162, Right : Photo. 4b, p163)	
--	--



編 集 委 員 卷 頭 言

Akihiko Serizawa

芹 澤 昭 彦

東海大学医学部付属病院 病理検査技術科

▶ 桜の下で変わらぬもの



平成 27 年度より編集委員を務めさせていただくことになりました芹澤昭彦です。伝統と権威がある日本臨床細胞学会雑誌の編集に携わることは身に余る光栄であるとともに、わたくしに課せられた重責に身の引き締まる次第でございます。若輩者ですがより良い学会誌に貢献できるよう誠心誠意頑張りますのでよろしくお願いいたします。

わたくしが現在担当している巻頭言における関東の季節は、まさに桜が満開となっており綺麗な桜吹雪に心躍る季節となっております。

桜と言えばお花見が真っ先に思い浮かびますがそのお花見も現在ではそれぞれ楽しみ方があると思います。例えば、お散歩しながらや写真を撮って楽しんでられる方々もいらっしゃると思いますが、やはり花見の醍醐味は桜の下で皆がともに集まり共に楽しむ宴ではないかと思われます。わたくしもかくして宴会が大好きなのですが、近年では、コンパクトに持ち運びができるテーブルや座り心地の良い椅子、保温性にすぐれた食器や電源不要のビールサーバーなど、お花見に便利なグッズも多く販売されており、とても野外と思えないくらい快適な時間を過ごすことができ昔から行われてきたお花見も時代とともに変化していると感じる今日この頃です。

本雑誌 55 巻 3 号では、3 編の原著論文、5 編の症例報告と特集として「ベセスダシステムを導入して（施設間の違い）—ASC-H の細胞判定と組織学的な背景—」における 4 編の執筆をいただいております。

原著論文においては、黒島義克らの「沖縄本島中部地区市町村子宮頸がん検診への LBC 全面導入効果—従来法と LBC 法の比較検討—」では、子宮頸がんの罹患率と死亡率が多い沖縄県において、検診への LBC 法の導入を試み 4 万件におよぶ大規模な比較を行ったところ、不適正標本が減少したことと要精検率が従来法に比べ倍近く増加したとの報告であり、検診における LBC 法の有用性が報告されています。Toshiyuki HABARA らの「Morphological analysis of reactive mesothelial cell clusters with collagenous stroma in malignant and non-malignant effusions」における英語論文では、体腔液中に出現する collagenous stroma を伴う反応性中皮細胞集塊（以下、CS 集塊）の臨床細胞学的特徴を検討しており、特に CS 集塊出現率は悪性細胞出現群（細胞診陽性群）で有意に高く、構成細胞数や大小不動の所見も癌性腔水症を鑑別するうえで有用な所見と論じています。内山 瞳らの「乳腺原発



invasive micropapillary carcinoma の細胞学的検討」では、予後不良とされている乳癌の特殊型である invasive micropapillary carcinoma (以下、IMPC) の7例について細胞学的にみた組織型推定率を検討しており、IMPCを推定しえる細胞所見を詳細に検討しその特徴が明確にされています。しかしながら、IMPCの組織学的な分化低下を示す症例の診断には苦慮するとされており、この腫瘍の細胞診での判定の難しさも論じられていました。

症例報告は、山田有紀らの「子宮体部より発生したと考えられる大細胞神経内分泌癌(LCNEC)の1例」、籠谷亜希子らの「膀胱微小乳頭型尿路上皮癌の2例」、石田誠実らの「淡明細胞軟骨肉腫の1例」、下山玲子らの「乳房部皮膚に発生した hidradenoma の1例」、吉田牧子らの「小脳髄芽腫(classic medulloblastoma)の1例」の5編です。いずれの症例報告においても、普段、われわれが経験することが少ないまれな腫瘍において、臨床学的、細胞学的や文献的にも詳細に考察されており、日常における細胞診断業務に役立つ有意義な論文と思われます。

特集では、第51回日本臨床細胞学会秋期大会(2012年、新潟)にて企画されたワークショップから安田政実先生(埼玉医科大学国際医療センター)と大野喜作先生(上尾中央総合病院検査技術科病理)のもと、ASCのなかの特にASC-Hに関して討論いただいた内容について各パネラーの先生に本特集でまとめていただきました。古田玲子先生には「細胞診ASC-Hの組織学的な背景病変—現状と問題点—」として組織学的な背景を中心に解説をいただいています。山田麻里沙先生には「がん専門病院のASC-H判定の現状と年齢層別にみた細胞像の特徴」、北村美寿穂先生には「総合病院4施設におけるASC-H判定の現状と問題点」、船津靖亮先生には「登録衛生検査所3社におけるASC-H判定の現状と課題」をそれぞれの施設における現状として、各施設が抱える細胞学的所見の差異などをまとめていただき、その問題点や施設間差などを明確にさせていただきました。本邦においてもベセスダシステムが導入され4年あまりが経ち、各施設に浸透し診断されておりますが、さらに、今回の内容を参考にいただき、今後ともASC-Hの診断においても精度向上に繋がっていただきたいと思います。

最後に、冒頭にも述べさせていただきましたが、昔から行われていたお花見ですが、便利なグッズによって快適になるものの、やはり、お花見の本質は桜の下で限られた期間で可憐な花びらを楽しむことに変わりはありません。近年の細胞診断においてもさまざまな新しい技術や知見などが報告され応用されつつあります。そのことは、より正確な診断や適切な治療に役立てられるものであって、細胞診断の本質に変わるものではないと思います。今後も皆様の投稿により診断や治療に役立てられるよう頑張っていきたいと思います。

日本臨床細胞学会雑誌投稿規定

1. 投稿資格

原則として投稿者は共著者も含め日本臨床細胞学会会員に限る。

2. 掲載論文

- 1) 論文の種別は総説, 原著, 調査報告, 症例報告, 特集, 短報, 読者の声である。
- 2) 投稿論文は臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので, 他誌に発表されていないものに限る。
- 3) 論文作成に際しては, プライバシー保護の観点も含め, ヘルシンキ宣言 (ヒトにおける biomedical 研究に携わる医師のための勧告) ならびに臨床研究に関する倫理指針 (厚生労働省 (平成 15 年 7 月 30 日, 平成 16 年 12 月 28 日全部改正, 平成 20 年 7 月 31 日全部改正) が遵守されていること。

※これらの指針は, 学会誌 1 号に記載。

- 4) 論文の著作権は本学会に帰属し, 著者は当学会による電子公開を承諾するものとする。セルフ・アーカイブ (自身のホームページ, 所属機関のリポジトリなど) においては表題, 所属, 著者名, 内容抄録の公開は学会誌の発行の後に認められる。
- 5) 論文投稿に際し, 著者全員の利益相反自己申告書 (様式 2) を添付すること。なお, 書式は <http://www.jssc.or.jp/member.html> からダウンロードし用いる。この様式 2 の内容は論文末尾, 文献の直前の場所に記される。規定された利益相反状態がない場合は, 同部分に, 「筆者らは, 開示すべき利益相反状態はありません。」などの文言を入れる。

3. 投稿形式

- 1) 原則として“電子投稿”とする。
- 2) 電子投稿の際には, 以下のサイトからアクセスする。
<https://www.editorialmanager.com/jjssc/>

4. 執筆要項

1) 文章と文体

- (1) 用語は和文または英文とする。
- (2) 平仮名, 常用漢字, 現代仮名づかいを用いる。ただし, 固有名詞や一般に用いられている学術用語はそ

の限りではない。英文での投稿原稿の場合も和文の場合に準ずる。

- (3) 度量衡単位は cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg など CGS 単位を用いる。
- (4) 外国人名, 適当な和名のない薬品名, 器具および機械名, または疾患名, 学術的表現, 科学用語については原語を用いる。大文字は固有名詞およびドイツ語の名詞の頭文字に限る。
- (5) 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」に準拠すること。また, その略語を用いても良いが, はじめに完全な用語を書き, 以下に略語を用いることを明らかにする。

2) 原稿の書き方

原稿はワープロを用い, A4 判縦に横書きし, 1 行 25 字で 20 行を 1 枚におさめる。上下左右に 30 mm 程度の余白をとり, 左揃えとする。文字は 12 ポイント相当以上を用いるのが望ましい。

3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。

Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (英文のみ), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

なお, 写真の解像度は, 雑誌掲載サイズで 300dpi 以上が目安である。

4) 総説・原著・調査報告・症例報告・短報論文の様式

(1) 構成

タイトルページ, 内容抄録, 索引用語 (key words), 本文, 利益相反状態の開示, 英文抄録, 文献, 写真, 図, 表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。タイトルページ (1 枚目) には, 当該論文における修正稿回数 (初回, 修正 1 など), 論文の種別 (原著, 症例報告, 短報など), 和文の表題 (50 字以内), 著者名, 所属のほかに論文別刷請求先, 著作権の移譲と早期公開に対する同意を明記する。

2 枚目には内容抄録, 索引用語を記載する。本文は内容抄録とは別に始める。

(2) 著者

著者名は直接研究に携わった者のみに限定する。著者数は以下のとおりとし, それ以外の関係者は本文末に謝辞として表記されたい。

原著：10 名以内

調査報告：8 名以内

症例報告：8 名以内

短報：5 名以内

総説：1 名を原則とする

(3) 内容抄録

短報を除いて 500 字以内にまとめ、以下のような小見出しをつける。

原著と調査報告：目的、方法、成績、結論

症例報告：背景、症例、結論

総説と特集：論文の内容に応じて適宜設定

(4) 索引用語

論文の内容を暗示する英語の単語 (Key words) を 5 語以内で表示する。原則として、第 1 語は対象、第 2 語は方法、第 3 語以下は内容を暗示する単語とする。

key words 例：

胆嚢穿刺吸引細胞診—胆嚢癌 4 例の細胞像と組織像—

Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology

肝細胞癌についての 1 考察

Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review

喀痰中に卵巣明細胞腺癌細胞が見出されたまれな 1 例

Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report

(5) 本文および枚数制限

a. 原著・総説・調査報告

本文、文献を含め 10,000 字以内 (A4 判 20 頁) とする。

図・表 (写真を含まず) は、10 枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが、必要最少限の枚数とする。

b. 症例報告

本文、文献を含め 6,000 字以内 (A4 判 12 頁以内) とする。

図・表 (写真を含まず) は、5 枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが、必要最少限の枚数とする。

c. 短報

出来上がり 2 頁以内とする。

写真は 2 枚以内 (組み合わせは各々 2 枚以内)。

図表は計 1 枚までとする。

写真 2 枚と図表 1 枚が入った場合の本文 (I. はじめに～) と文献は 1,500 字程度 (A4 判 3 頁)

を目安とする。

(6) 英文抄録

本文とは別紙に、表題の英訳およびローマ字つづりの著者名、所属の英文名、および抄録内容を記す。著者名のあとに、以下の略号を用いてそれぞれの称号あるいは資格を付記する。

医師：M. D. M. D., M. I. A. C. M. D., F. I. A. C.

歯科医師：D. D. S. とし、それ以外の称号あるいは資格は医師と同様に付記する。

臨床検査技師：M. T., C. T., J. S. C., C. T., I. A. C., C. T., C. M. I. A. C., C. T., C. F. I. A. C.などを記載する。抄録内容は英語で 200 語以内 (ただし表題、著者名、所属名はのぞく) とし、以下のような小見出しをつけてまとめる。

原著と調査報告：Objective, Study Design, Results, Conclusion

症例報告：Background, Case (または Cases), Conclusion

総説：論文の内容に応じて適宜設定

短報：小見出しをつけずに 100 語以内にまとめる

(7) 文献

a. 主要のものに限る。

原著・特集・調査報告：30 編以内

症例報告：15 編以内

短報：5 編以内

総説：特に編数の制限を定めない

b. 引用順にならべ、本文中に肩付き番号を付す。

c. 文献表記はバンクーバー・スタイルとし、誌名略記について和文文献は医学中央雑誌刊行会、英文文献は Index Medicus に準ずる。参考として以下に例を記載する。

【雑誌の場合】

著者名 (和名はフルネームで、欧文名は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで 6 名まで表記し、6 名をこえる場合はその後を “・ほか”, “et al” と略記する)。表題 (フルタイトルを記載)。雑誌名 発行年 (西暦) : 巻 : 頁 - 頁。

【単行本の場合】

著者名。表題。発行地 : 発行所 : 発行年 (西暦)。なお、引用が単行本の一部である場合には表題の次に編者名、単行本の表題を記し、発行年。頁 - 頁。

他者の著作物の図表を論文中使用する場合は、原著者 (あるいは団体) より投稿論文を電子公開することを含めた許諾が必要で、これを証明

する書類を添付する。

(8) 図・表・写真

- a. 図, 表は英文で作成する。写真, 図, 表は Photo, 1, Fig. 1, Table 1 などのようにそれぞれの番号をつけ, 簡単な英文のタイトルと説明を付記する。
- b. 本文中には写真, 図, 表の挿入すべき位置を明示する。
- c. 顕微鏡写真には倍率を付する。顕微鏡写真(細胞像, 組織像)の倍率は撮影時の対物レンズ倍率を用いるが, 写真へのスケールの挿入が好ましい。顕微鏡写真については撮影時の倍率を表示するか, または写真にスケールを入れる。

5) 特集論文の様式

一つのテーマのもとに数編の論文(原著ないし総説)から構成される。特集企画者は, 特集全体の表題(和文および英文)および特集の趣旨(前書きに相当)を1,200字以内にまとめる。原稿の体裁は原著・総説に準じる。

6) 読者の声

以上の学術論文に該当しないもので, 本誌掲載論文に関する意見, 本学会の運営や活動に関する意見, 臨床細胞学に関する意見を掲載する。ただし, 他に発表されていないものに限る。投稿は以下の所定の書式・手順による。

- (1) 表題は和文50字以内とする。表題に相当する英文も添える。

改行して本文を記述する。

末尾に著者名(資格も付記), 所属施設名, 同住所の和文および英文を各々別行に記す。著者は1名を原則とする。文献は文末に含めることができるが, 表・写真・図を用いることはできない。これらの全てを1,000字以内(A4判2頁以内)にまとめる。

- (2) 掲載の可否は編集委員会にて決定する。なお, 投稿内容に関連して当事者ないし第三者の意見の併載が必要であると本委員会が認めた場合には, 本委員会より該当者に執筆を依頼し, 併列して編集することがある。

7) 英文投稿の場合

A4 縦にダブルスペースで10頁以内とする。

和文抄録を付し, 図・表その他は和文の場合に準ずる。

5. 別 刷

別刷を希望するときは, 校正時に部数を明記して申し込む。

6. 論文の審査

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し, その結果を筆頭著者に通知する。審査にあたっては査読制をとる。原稿の組体裁, 割付は編集委員会に一任する。

7. 校 正

著者校正は原則として初校において行う。出版社から送付された校正は, 必ず3日以内に返送する。校正担当者が筆頭著者以外の時は, 校正の責任者と送り先を投稿時に明記する。校正では間違いを訂正する程度とし, 原稿にない加筆や訂正は行えない。

8. 掲 載 料

出来上がり4頁までを無料とし, 超過頁の掲載料は著者負担とする。白黒写真製版代およびカラー写真印刷代は無料とするが, その他の図版費(図の製版代), 英文校正料, 別刷代は著者負担とする。また, 邦文論文の英文校正料と別刷代については半額免除とし, 英文論文の場合は図版費を含めて掲載料を免除する。

9. 本規定の改定

投稿規定は改定することがある。

(平成4年6月一部改定)	(平成22年9月一部改定)
(平成6年6月一部改定)	(平成23年3月一部改定)
(平成9年6月一部改定)	(平成23年8月一部改定)
(平成11年6月一部改定)	(平成24年4月一部改定)
(平成21年5月一部改定)	(平成26年5月一部改定)
(平成21年6月一部改定)	(平成26年11月一部改定)
(平成21年11月一部改定)	(平成26年12月一部改定)
(平成22年4月一部改定)	(平成27年3月一部改定)

添付1 Acta Cytologica への投稿について

投稿規定は www.karger.com/acy に明記されていますのでこれに従って下さい。従来は国内での査読を行っていましたが, 直接投稿していただくことになりました。

添付2 以下の2項目は毎年1号に掲載する。

- ・ヘルシンキ宣言
- ・臨床研究に関する倫理指針

平成15年7月30日

(平成16年12月28日全部改正)

(平成20年7月31日全部改正)

NOTICE TO CONTRIBUTORS

1. Authorial responsibility :

All authors of this journal including coauthors must be members of the Japanese Society of Clinical Cytology.

2. Categories of articles published :

1) The categories of articles published in this journal are *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports*, *special articles*, *brief notes*, and *reader's voices*.

2) The submitted articles should contribute to the advancement of clinical cytology and must be submitted exclusively to this journal.

3) Authors must observe the Declaration of Helsinki (recommendations for physicians conducting biomedical studies in humans) and the Ethics Guidelines for Clinical Research (Ministry of Health, Labour and Welfare, July 30, 2003, Revised on December 28, 2004 and July 31, 2008), including privacy protection.

* These guidelines appear in the first issue of the journal.

4) Copyright for articles published in this journal will be transferred to the Japanese Society of Clinical Cytology, and the authors must agree that the articles will be published electronically by the Society. The authors are permitted to post the title, affiliations, authors' names and the abstract of their article on a personal website or an institutional repository, after publication.

5) All authors will be required to complete a conflict of interest disclosure form as part of the initial manuscript submission process. The corresponding author is responsible for obtaining completed forms from all authors of the manuscript. The form can be downloaded from (<http://www.jsccl.or.jp/member.html>) The statement has to be listed at the end of the text.

3. Submission style :

1) As a general rule, manuscripts should be submitted electronically.

2) For initial submission, please access the site below.
(<https://www.editorialmanager.com/jjcc/>)

4. Instructions for manuscripts :

1) Text and writing style

- (1) Manuscript is to be written in Japanese or English.
- (2) Hiragana, daily use kanji and contemporary Japanese syllabic writing should be used, except for proper nouns and generally used technical terms. English manuscripts should be prepared essentially in the same manner as Japanese manuscripts.
- (3) Weights and measures are expressed in CGS units (cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg, etc.).
- (4) Names of non-Japanese individuals, drugs, instruments / machines, or diseases that have no proper Japanese terms, academic expressions and scientific terms are to be written in the original language. Upper case letters should be used only for proper nouns and the first letter of German nouns.
- (5) Medical terms should be in accordance with the "Saibou-shinn yougo kaisetsu-syu (Handbook of cytological terminology)" edited by the Japanese Society of Clinical Cytology. Abbreviations of medical terms may be used, but the terms should be spelled out in full at their first occurrence in the text and the use of abbreviations is to be mentioned.

2) Manuscript preparation

Manuscripts are to be prepared using a word processor on vertical A4-size paper, with 25 characters per line and 20 lines per page. The top, bottom and side margins should be approximately 30 mm, and paragraphs left-justified. Twelve point or larger font size is preferable.

3) Electronic files

The following electronic file formats are recommended. Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (English only), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

A minimum resolution of 300 dpi size is required for photographs for publication.

4) Style of *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports* and *brief notes*.

- (1) Manuscript format

The parts of the manuscript are to be presented in the following order : Title page, abstract, key words, text, conflict of interest disclosure, English abstract, references, photographs, figures and tables. The pages of the manuscript should be numbered consecutively. The number of revisions (initial submission, first revision, etc.), the category of paper (*original article*, *case report*, *brief note*, etc.), Japanese title (not exceeding 50 characters), name (s) of author (s), authors' affiliations, address for reprint requests, and agreement of copyright transfer and early publication must be clearly written on the title page (the first page).

The abstract and key words are to be written on the second page. There should be a separation between the abstract and the start of the text.

(2) Authors

Authors will be limited to persons directly involved in the research. The number of authors is to be as follows, and other persons involved should be mentioned in the *Acknowledgments* section at the end of the paper.

Original articles : no more than 10

Investigation reports : no more than 8

Case reports : no more than 8

Brief notes : no more than 5

Review articles : just one author, as a general rule

(3) Abstract

The text of the abstract should not exceed 500 characters, except for *brief notes*, and the headings should be comprised of the following.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles and *special articles* : headings are to be selected according to content.

(4) Key words

No more than 5 key words indicative of the content of the paper are to be supplied. As a general rule, the first term usually indicates the subject, the second term, the method, the third term and beyond, the content.

[Titles followed by examples of appropriate key words in parentheses]

Examples of Key words :

– Gallbladder aspiration cytology — Cytological and histological findings in four cases of gallbladder cancer — (Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology)

– A review of hepatocellular carcinoma (Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review)

– A rare case of ovarian clear cell adenocarcinoma cells detected in sputum (Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report)

(5) Text and page limitations

a. *Original articles*, *review articles*, and *investigation reports* :

The manuscript should not exceed 10,000 characters (20 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 10 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

b. *Case reports* :

The manuscript should not exceed 6,000 characters (12 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 5 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

c. *Brief notes* :

A brief note should not exceed two printed pages.

No more than two photographs (or combinations of no more than two photographs) and one figure or table can be included.

If two pictures and one figure or table are included, text (I. Introduction ...) and references should be approximately 1,500 characters (3 pages of A4 size).

(6) English abstract

An English translation of the title, authors' names in Roman letters, authors' affiliations in English, and English abstract should be given on a page separate from the text. The authors' degrees/qualifications are to be written after their names using the following abbreviations.

For physicians : MD ; MD, MIAC ; MD, FIAC.

For dentists : DDS, with other degrees or qualifications abbreviated the same as for physicians.

For clinical laboratory technologists : MT ; CT ; JSC ; CT, IAC ; CT, CMIAC ; CT, CFIAC.

The text of the abstract should not exceed 200 words (exclusive of the title, authors' names and affiliations), and the following headings are to be used.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles : headings should be selected according to their content.

Brief notes : abstracts for brief notes should consist of no more than 100 words and no headings are to be used.

(7) References

- a. Only major references are to be listed.

Original articles, special articles, and investigation reports : no more than 30 titles

Case reports : no more than 15 titles

Brief notes : no more than 5 titles

Review articles : no limit

- b. References are to be listed in the order in which they appear in the text, and indicated by superscript numbers in the text.
- c. The references should be listed in the Vancouver style, and the journal abbreviations in Japanese and English references according to the Japan Medical Abstracts Society and Index Medicus, respectively. Examples are shown below.

For journals :

Name (s) of the author (s) (full names for Japanese names ; for European names, surnames of the first 6 authors spelled out, with initials for the rest of the name, and other authors' names abbreviated "*et al*"). Title (full title should be given). Name of the journal (space) Year of publication ; Volume : Page numbers.

For books :

Name (s) of the author (s). Title. Place of publication : Name of the publisher ; Year of

publication (If a citation is just one part of an independent book, the title should be followed by the name of the editor, the title of the book, and the year of publication). Page numbers.

If figures and tables from another author's work are used in the article, permission for publication, including electronic publication, must be obtained from the original author (or organization), and the documents certifying this permission must be attached.

(8) Figures, tables and photographs

- a. Figure and table titles are to be written in English. Photographs, figures and tables are to be numbered thus : Photo. 1, Fig. 1, Table 1, etc. Provide simple titles and explanations in English.
- b. Clearly state where the photographs, figures and tables should be positioned in the text.
- c. Magnifications are to be stated for micrographs. The magnification of the objective lens at the time the photograph was taken will be used as the magnification for photomicrographs (photographs of cells or tissues). Authors are recommended to use scale bars in the photograph. For electron micrographs, the magnification at which the photograph was taken should be stated or scales included in the photograph.

5) Style of *special articles*

Special articles are composed of several papers (*original articles* or *reviews*) on a single topic. The planners of *special articles* need to prepare the title of the whole special issue (in Japanese and English) and a synopsis (equivalent to an introduction) of no more than 1,200 characters. The style of *special articles* should be the same as for *original articles* and *review articles*.

6) *Reader's voices*

Submissions which do not fit the above-described categories for scientific papers, including opinions on papers already published in the journal, the operation and activities of the Japanese Society and Clinical Cytology, are also published, but only if they have not been presented elsewhere. Submissions should be in accordance with the following prescribed form and procedure.

- (1) The title is not to exceed 50 characters, and a corre-

sponding English title should be provided.

The text should be started on a new line.

At the end of the text, the name (s) of author (s) (with the authors' qualifications), institutional affiliations and addresses should be written in Japanese and English on separate lines. As a general rule, there should be just one author. References can be added at the end, but no tables, pictures and figures. All of the above should be no more than 1,000 characters (no more than 2 pages of A4 size).

- (2) The editorial board will decide whether a submission will be published. If the Committee finds it necessary to also publish the opinion of a person referred to in the manuscript or a third party in regard to the content of the paper submitted, the Committee will request that the person concerned write it, and the two will be published together.

7) English manuscripts

English manuscripts are to be written double-spaced on A4 paper, and should not exceed 10 pages.

A Japanese abstract should be provided, and figures, tables, etc. are to be prepared in the same manner as the Japanese manuscript.

5. Reprints :

When reprints are desired, the author should state the number of copies to be ordered when returning the first galley proof.

6. Review of the manuscript :

Whether a manuscript submitted for publication will be accepted is determined by a review conducted by the editorial board, and the first author will be notified of the results. The referee system is used to conduct these reviews. The editorial board will be responsible for the layout and format used in printing the manuscript.

7. Proofreading :

The publisher will send the first galley proof to the first author, who should check and return it within three days. When the person responsible for proofreading is someone other than the first author, the person's name and address must be clearly stated when the manuscript is submitted.

Only errors can be corrected on proofs. Nothing that is not already in the manuscript can be added or corrected.

8. Publishing fee :

Authors will be charged for space in excess of 4 printed pages. There will be no charge for the cost of printing black-and-white and color photographs. However, authors will be charged for plate making for figures other than photographs, English proofreading and reprints. In addition, half the charges for English proofreading and reprints of Japanese articles will be waived, and the publishing fees, including plate making charges, for English articles will be waived.

9. Revision of these rules :

The rules for submitting manuscripts may change.

(Partial revision June 1992)

(Partial revision June 1994)

(Partial revision June 1997)

(Partial revision June 1999)

(Partial revision June 2009)

(Partial revision November 2009)

(Partial revision April 2010)

(Partial revision September 2010)

(Partial revision March 2011)

(Partial revision April 2012)

(Partial revision May 2014)

(Partial revision November 2014)

(Partial revision December 2014)

(Partial revision March 2015)

Appendix 1. Submission of manuscripts to *Acta Cytologica*

Please go the new *Acta Cytologica* website ([www.karger.com / acy](http://www.karger.com/acy)) and read guidelines for manuscript submission. Submission of manuscripts to the Japanese Editorial Office for preparatory review has been abolished.

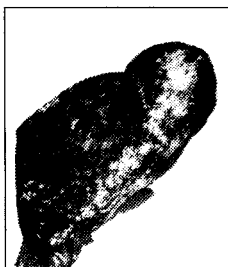
Appendix 2. The following 2 items will appear in the first issue of every year.

- Declaration of Helsinki
- Ethics Guidelines for Clinical Research
July 30, 2003
(Revised on December 28, 2004)
(Revised on July 31, 2008)

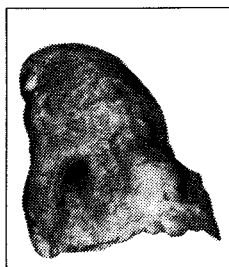
日本臨床細胞学会編集委員会 (平成 27 年～28 年)

委員長: 竹島信宏					
担当理事: 井上 健	河原 栄	小西 登			
委員: 岡田真也	岡本三四郎	河内茂人	九島巳樹	清水 健	芹澤昭彦
寺井義人	富永英一郎	古田則行	星 利良	的田真紀	三上芳喜
室谷哲弥	矢納研二				
幹事: 松浦基樹					
査読委員: 秋葉 純	池田純一郎	板持広明	一迫 玲	伊藤以知郎	伊東英樹
伊藤 仁	今村好章	伊豫田明	岩成 治	岡部英俊	小野瀬亮
加来恒壽	片岡史夫	加藤良平	亀山香織	河合俊明	河原明彦
喜多恒和	北村隆司	清川貴子	金城 満	九島巳樹	工藤浩史
黒住昌史	小松京子	近藤英司	齋藤俊章	笹川寿之	笹島ゆう子
佐藤之俊	柴 光年	清水恵子	清水道生	白石泰三	杉山裕子
鈴木雅子	鈴木正人	関根浄治	高澤 豊	高橋健太郎	楯 真一
田中浩彦	田中尚武	田中良太	谷山清己	田畑 務	田丸淳一
辻村 亨	土屋真一	土岐尚之	内藤善哉	中泉明彦	中村直哉
中山富雄	長尾俊孝	則松良明	羽賀博典	畠山重春	服部 学
濱田哲夫	林 透	広岡保明	廣川満良	廣島健三	藤井多久磨
藤原 潔	細根 勝	前田一郎	増田しのぶ	松元 隆	丸田淳子
三浦弘之	三橋 暁	光谷俊幸	南口早智子	元井紀子	森下由紀雄
森園英智	森谷卓也	安田政実	山口 倫	横尾英明	横山良仁
吉見直己	米山剛一	若狭研一	若狭朋子	鷲谷清忠	渡辺 純

(50 音順)



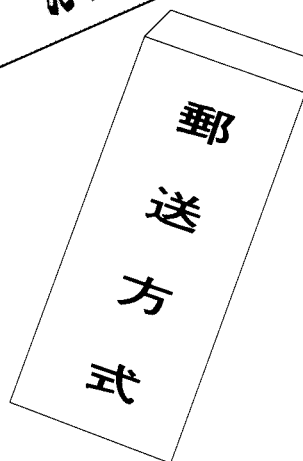
左側：長期間喫煙者の肺



右側：非喫煙者の肺

肺がん予防・早期発見のために

たんのけんさ 喀痰細胞診のすすめ



【特 長】

- 1 簡便な「ポスト投函」による郵送で、高い受診回収率が期待できます。
- 2 携帯便利な「ボックス型」で、「何時」でも「何処」でも「採痰」が可能です。
- 3 採痰後、「迅速かつ効率的」な「直接塗抹法」で高い処理能力を有し、検診に適しています。
- 4 保存液は、「細胞の形態保存」「染色性」に十分な配慮がされています。
- 5 検鏡下で、「生痰と同様な所見」が得られ、検索が容易です。
- 6 蓄痰法で、特に肺門部癌の「陽性率80%」以上の検出率です。

本品は、東京医科大学早田 義博名誉教授、加藤 治文名誉教授のご指導で作製しました。50%エタノール、2%カーボックス、0.5%チモール、生食水を保存液とした「郵送方式を特長」とし、肺がんの早期発見を目的とした喀痰細胞診専用容器です。

※容器発注及び受検方法などの詳細は、
下記へお問い合わせ下さい。

製造発売元



メディカル ケア センター

〒340-0017 埼玉県草加市吉町5丁目11番8号 ☎048-927-3628

推 薦 東京医科大学外科学教室

